

図書館蔵書に対する評価は、その量よりも質にあることは言うまでもないが、その質的条件の中にもどのような稀観本（きこうほん）

本館

稀

観

本

所蔵

世間に流布されていない珍しい書物）が収蔵されているかがある。については、ご専門のお立場から本館所蔵の稀観本をご紹介します

の中から

西洋服飾稀観書(10) 『西洋服飾版画』の発刊およびブリュインの『諸国民の服装』について

文化女子大学教授 石山 彰

大学ならびに図書館の多大のご協力によって、昨年11月の文化祭を契機に開催された“ファッション・プレートの系譜——服飾版画の300年”という学園創立50周年記念特別展示に出品された本学図書館所蔵の稀観本や服飾版画が中心となって、このたび文化出版局から『西洋服飾版画』と題した豪華本が刊行されることになった。担当した私たちの喜びもさることながら、このためにご尽力いただいた本村先生をはじめ古田課長ならびに図書館の方々や今井田出版局長以下の編集スタッフの方々、そして何よりも大沼学長のご理解に謝意を表させていただきます。

この本は、図書館所蔵の約10,000枚近くの、いわゆるコスチューム・プレートやファッション・プレートの中から名作とされる74点を選び、計64枚の忠実な色刷りの復元図集としてまとめたもので、一般の方々にも理解できるように詳しい図版解説と本文解説が付されている。年代は、17世紀の30年代から20世紀の25年代までの約3世紀間に及び、ひとつと歴史の流れを追って編集してあるので、西洋服装史の研究にとっても、今後重要な史料となるであろう。

個人で購入するには、やや高価なのが難点であるが、学生諸君にも、図書館で、ぜひ見てもらいたいと考えている。

さて、今回の稀観書紹介では、ブリュインの『諸国民の服装』をあげよう。タイトルは下記のとおりである。

〔383.1—B〕 *Bruyn, Abraham de; Omnium pene Europae, Asiae, Africae atque Americae gentium habitus, Antwerp, [1577] 1610.* すなわち、アブラーム・ド・ブリュイン著、『ヨーロッパ、アジア、アフリカおよびアメリカの、ほぼ全域にわたる諸民族の服装』（1577年初版）1610年、アントワープ刊であり、本書がルネッサンス期に起こ

る服装書の中でも、最も初期に属する貴重な史料であることが知られる。事実、代表的な西洋服装史の文献には、必ず紹介されているほど、この本は、有名であり、私たちが、いながらにして現物に接することができるなど、全く思いもよらぬことであった。

ブリュインは、1540年、フランドル（今のベルギーと南オランダにまたがる地域）のアントワープに生まれ、1577年ころまでドイツのケルン——この地は、むしろフランス語のコローニュとして“オー・デ・コロン”（コローニュの水）の名で知られている——に住んで銅版画を制作し出版した後、1580年には、再びアントワープに帰ってサン＝リュクの組合に登録している。エッチングの教育にも携わり、1581年には、アントワープの“ブルジョア”となり、恐らくは1587年にコローニュで没したものとされている。このように、ブリュインの経歴については、あまりよくわかっていない。しかし、作品で見ると、彼のエッチングの技術は、当時一級に属していたことが明白で、本書の名を高からしめた理由の一つも、まさしくこの点にあったことが理解される。

タテ26cm×ヨコ35cmの、いわゆる横長フォリオ版の本書には、別図に示す、いかにもルネッサンス期にふさわしいモニュメンタルな扉絵が描かれ、ラテン語とフランス語とドイツ語でタイトルがしるされている。上部中央の小円には“天空”を配し、それと対応の形で、下部中央に地球儀を配し、四周にはアジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカの四大州にふさわしい動植物や人物が配されている。

第2の扉の上段には、ヨーロッパ各国の王室を象徴するたて(楕)型紋章（コート・オブ・アームズ）を配置し、左



②プレート No. 7 ニュールンベルクの男女



③プレート No. 12 “ダンチッヒの男女”

右に“威厳”と“権力”を象徴する人物が描かれ、その下方から四大州を象徴する人物がのぞいている。そして、これら2枚の扉絵のエッチング技術は、ずばぬけて精巧である。3枚目の口絵には、二人の女王がメダイオン風に描かれている。一人は、ユダヤ人の解放に尽くしたベルシヤの王妃エステル、他の一人は、コロンブスの援助者としても知られるカスティリアの女王イサベル（在位1474～1504）である。本文に当たるプレートは、4枚目から始まっており、No.1～58が各国の市民服と軍服、更に、別のNo.1～19が宗教服となっている。

これらプレートの形式は、挿図に見るとおり1段形式のもの2段形式のものに分かれ、版の大きさも、いくぶん不規則になっているが、総態数は、約500近くに及ぶ。いちおうの目次を作製すると、以下のとおりである。（ゴシック字体の数字は、原図のプレートNo.）

- 1—神聖ローマ帝国皇帝 2—同選挙候 3—王族の女性 4—フランクフルトの女性 5—ドイツの婦人 6—ドイツ平野部の女性 7—ニュルンベルクの男女 8—ノリウム（今日のチロール地域）の婦人 9—ドイツの男 10—シレジア（ポーランド）とボヘミアの男女 11—ドイツの男 12—ダンツィヒ（現ポーランド領）の男女 13—北部ドイツの男女 14・1—ベルギーの男女 14・2—リーフアント（パルト海沿岸地方）の女性 51・1—コローニュの女性 15・2—ブラバント地方（ベルギー）の女性 16・1—ベルギー、オランダの男女 16・2—コローニュの男女 17・1—丘陵地帯（スイス寄り）の男女 17・2—ベルギー、ブラバント、コローニュの男 18—北部ドイツと南部高地地帯の女性 19—ブラバントとアントワープの男女 20—ベルギーの男女 21—ドイツとベルギーの男女 22～24—義勇軍の服装 25—ベルギー、イギリス、オランダの兵士 26—アントワープ、ブラバントの婦人 27—コローニュ、フランドルなどの男たち 28・1—オランダとプ

- リテンの男たち 28・2—イギリスの上層の人々 28・3—フランスの上層婦人 28・4—神聖ローマ帝国の男子職業服 29—スペインの男女 30—イタリアの貴族(男) 31—イタリアの貴族(女) 32—イタリアの貴族(男) 33～37—イタリアの貴婦人 38—イタリアの庶民男女 39～40—スペインの軍人 41—ハンガリアとポーランドの軍人と市民 42—コーカサスの男 43—トルコの男 44～53—トルコの男女 54—トルコとバルカンの女性 55～56—トルコの庶民 57—アルジェリアの男女 58—アメリカ・インディアンの男女（以下は宗教服につき省略）

これらのうち2段に描かれたプレートの大半は、ベルテリウスの『諸国民の服装』 *Bertellius, Pierre; Diversarum Nationum Habitus, Venezia, 1589～96.* の模刻であり、したがって本書の初版にはないもので、1610年版で付加された。ちなみに、蔵書サインによれば、本書の旧所蔵者は、アントワープ・アカデミー会長の *Matth. van Brée (1773～1839)* と画家 *N. de Keyser (1813～1887)* であったことが知られ、本書が、いかにゆい(由)緒の深いものであるかがわかる。

①ブリュイン『諸国民の服装』の第1の扉絵



④プレート No. 14・1 “ベルギーの男女”



⑤プレート No. 23 “義勇軍の服装”